2010 国民読書年

県立広島大学・ひろしま美術館連携公開講座

本を彩る美の世界

日　時　平成22年10月16日・23日・30日（土）

13:20～15:50

会　場　県立広島大学　広島キャンパス　（広島市南区宇品東1－1－71）

10月16日（土）	13:20～14:30	本の作り方から見る東洋と西洋	県立広島大学人間文化学部准教授 丸山　浩明
	14:40～15:50	絵本の歴史と原画の魅力	ひろしま美術館学芸員 水木　祥子
10月23日（土）	13:20～14:30	ケルズの書： ケルトの聖書写本とケルト文化	県立広島大学人間文化学部教授 高橋　渡
	14:40～15:50	「印刷」と「版画」の微妙な関係	ひろしま美術館主任学芸員 古谷　可由
10月30日（土）	13:20～14:30	本を読む・書く・作る	県立広島大学人間文化学部教授 天野　みゆき
	14:40～15:50	「芸術家の本」について	ひろしま美術館主任学芸員 渡辺　純子

募集対象　どなたでも　100名程度

受 講 料　無料

申込方法　往復はがきの往信面の裏に①郵便番号、②住所、③お名前、④ふりがな、⑤電話番号を、返信面の表に受講される方の郵便番号、住所、お名前（○○○○「様）をご記入の上、平成22年9月30日（木）（消印有効）までに次のところにお送りください。

〒734-8558 広島市南区宇品東1-1-71
県立広島大学地域連携センター「本の講座」係
電話（082）251-9534

受講案内は10月上旬にお届けします。なお、申込多数の場合は抽選となることがあります。

※申し込みにあたってお寄せいただいた個人情報は県立広島大学公開講座以外の目的には使用しません。

主　催　県立広島大学地域連携センター、公益財団法人ひろしま美術館

県立広島大学・ひろしま美術館連携公開講座

「本を彩る美の世界」概要

丸山浩明「本の作り方から見る東洋と西洋」

知の拡がりを支える本の作り方のあれこれから、東洋の文化と西洋の文化との相違を考えます。書写媒体としての紙や刷る技術、字体書体や「版」の特徴、そして本の種類と形など、本の〈美〉を支える要素を印刷・出版の面から確認します。

水木祥子「絵本の歴史と原画の魅力」

子どものための絵本が初めて作られたのは今から約350年前のことです。ヨーロッパと日本における絵本の歴史を辿るとともに、絵本の原画にみられるさまざまな画材や技法、絵本ならではの効果や工夫を紹介します。

高橋　渡「ケルトの聖書写本とケルト文化」

アイルランドの「ケルズの書」は手書きで独特の装飾を施したとても美しい聖書の写本です。何故そのような写本が作られたのでしょうか？また、その装飾にはいかなる意味が込められているのでしょうか？ケルトの歴史をひもときながら考えてみたいと思います。

古谷可由「“印刷”と“版画”の微妙な関係」

複製技術である「印刷」と芸術の一分野とされる「版画」。ともに広く情報を伝えることに起源をもちながら、今日ではまったく違ったイメージがもたれています。この両者の微妙な関係についてお話するとともに、西洋と日本の歴史をそれぞれ振り返ります。

天野みゆき「本を読む・書く・作る」

産業革命により19世紀のイギリス社会は大きく変化しました。その中で人々はどのように本と関わったのでしょうか。イギリスらしい小説を最初に書いたとされるジェイン・オースティンと、美しいでデザインで知られるウィリアム・モリスの作品と生き方から考えてみます。

渡辺純子「“芸術家の本”について」

ピカソ、マティス、シャガール―20世紀絵画の巨匠の多くは、"芸術家の本(リーヴル・ダルティスト)"と呼ばれる本の制作を試みています。挿絵のための版画制作はもちろん、時にはテキストも手がけ、一冊の本まるごと画家自身が目を配って美しい本に仕上げるのです。"芸術家の本"の背景には、20世紀に入って美術界に大きな影響力を持つようになった画商や出版人たちの活躍がありました。これらの人びとと画家たちのコラボレーションによって生まれた20世紀の挿絵本を紹介します。

ひろしま美術館マスコットキャラクターゴッホくん